

ふりがな 氏名	かわぐち えりこ	都 道 府 県	東京都	
	河口 枝里子			
所属/肩書	公益財団法人 ユネスコ・アジア文化センター / 人物交流部			
私のESD活動	教職員のための国際教育交流事業の実施運営			

活動の概要

私は、現在ユネスコ・アジア文化センター(ACCU)にて、日本の教職員および海外(タイ・インド・中国・韓国)の教職員の教育交流プログラムの実施と運営をします。各プログラムでは、約1週間の期間で、学校訪問、教職員・児童生徒との交流や、実際に海外の先生には日本で、または日本の先生には海外で授業をしてもらう機会などを設けています。これらのプログラムでは、「ESD」を実践している学校に訪問する機会もあります。しかし、「ESD」の捉え方が、日本国内でも様々であり、さらに外国に目を向けると、その多様さはもっと増します。さらに、「ESD」という言葉を知らない教育実践者もたくさんいます。プログラムの運営者として、私が大切にしていることは、違った教育方法に優劣をつけるのではなく、その違いの背景を考えてもらう機会を設けることです。それぞれの環境や社会的背景に適応した教育や地域社会があることを知ってもらい、それぞれの先生の学校現場に持って帰ってもらうことを目標にしています。実際に、プログラム内で実施している教育交流会では、全国から日本の教職員が集まり、タイやインドの教職員と、学校の現状や課題を共有し、解決策を一緒に考える時間、そしてこれからの相互が交流できる機会を設けています。

○「公益財団法人ユネスコ・アジア文化センター」 <http://www.accu.or.jp/jp/activity/person.html>

今後の活動や協働への展望

現在運営実施している、国際教育交流プログラムの幅を広げたいと思っています。このコンファレンスで出会った人々との出会いを通して、ESDを実践している先生同士の交流の深められる、教育交流の機会となるプログラムをつくって行きたいと思っています。ESDの担当の先生の中には、学校で孤立している事も多く、学校で悩みを共有する場、活動をさらに発展させるため、学校内外を超えて話をする機会がないと聞きます。また、ESDを知らない先生の中には、すでにESD的活動をされている方々も大勢いたりします。このような点を踏まえて、コンファレンスに参加されている方々とESD活動の現状を共有し、国際教育交流プログラムの運営を通して、教育活動の悩みを共有したり、国内外を超え、お互いに気付いていない点に気付くことができる機会を、柔軟な視点を持って、日本国内の先生、そして海外の先生が交流できるプログラム築いていきたいと思っています。